

## 相模線あれこれ～その2～

大正10年民間の路線として茅ヶ崎・寒川間に相模線が敷かれた。その時の趣意書には大山阿夫利神社の参詣客への対応、沿線一帯の穀物・木材の輸送に加え砂利の輸送をうたっている。レールは相模川に沿って敷かれた。沿線に住宅はほとんどなく旅客輸送のニーズは少なく、砂利の輸送が大半を占めた。(その後相模川の河床低下が問題となり昭和39年相模川の砂利採取は全面禁止となった)

路線名の「相模」は相模鉄道に由来するもので旧国名「相模の国」に由来するものではない。相模線は茅ヶ崎・橋本間33.3kmを走っているが当時、主要な駅は茅ヶ崎、海老名、厚木、橋本の4駅でその他の9駅は無人駅さらに3駅は一時無人駅であった。

2017年のJR東日本の調査によると…

2017年路線別平均通過人員の推移(在来線)では、30年前の1987年を100%とした場合横浜線で189%武蔵野線で242%京葉線で255%、相模線ではなんと317%とダントツの1位である。乗客数は別としてその伸び率は非常に高いということ。(換言すれば30年前の利用人員はいかに少なかったか!!ということにもなる)



## 自動精算機



～館報編集委員Kのひとりごと～

この頃の店舗では、支払いは客が自動精算機で、自分で行うというパターンが増えてきた様だ。ところが私はこれが苦手です。いつも機械の前でドキドキしている。

支払機と私との相性が良いことを願っているわけだ。相性が悪いと、てきめん渋滞を引き起こし小さな混乱が起きてしまう。精算機の設置はあくまでも店側のコストカットの為の処置なのに、レジの前に立った私が(不始末をしでかした)張本人かのように、店舗全員のお叱りと嘲笑をあげてしまうのだ。それでなくても小心者の私は、ますます慌てて小銭を落としたり・・・という失態をくりかえしてしまうと云う訳だ。

世の中のIT化への波は必然であるとは理解しているが、無理に行うのではなく、もう少しゆっくりと個人(特に高齢者)に合わせた優しい発展で良いのではないか・・・と思うのだが、なかなか世の中に受け入れてもらえない。急速な変化についていけない者は、取り残されて家に閉じ籠れというのか。そうなると店側も客が来なくなるので迷惑だろう。そういえば7月ごろから新紙幣が流通するらしい。ここでまた、新自動精算機が登場するのではないだろうか。どういう変化があるのか……。怖ろしい事になりそうだ。

7月と言えばパリでのオリンピックが開催される。場所が遠いからといって安心はできない。国内では来年4月から大阪万国博覧会が開かれる予定である。今の日本でそんなに浮かれていても良いものだろうか。

まあ、あまり杓子定規に考えても上手くないので、我々一般市民はゆっくりとマイペースで、相模原の空の下新しい自動精算機の攻略法でも考えてみたい、と思う訳だ。